

# 令和5年度決算

## 【概要】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となる一方で、世界経済の情勢は不透明さを増しているため、一層の物価上昇が懸念される年度となりました。その中で、教育・研究、病院運営を行い法人としての使命を実現するため、収入の増加と経費の節減による収支構造の改善を目指し、旧武蔵小杉病院跡地の売却案件を含め、基本金組入前の収支差額236億円の収入超過(黒字)を計画してスタートしました。

収入面では、医療収入は全教職員の的確な対応により前年度実績や予算を上回りながら推移し、補助金は新型コロナウイルス対応にかかる補助金が減少しましたが、教育・研究など各種補助金獲得に注力しました。また、旧武蔵小杉病院跡地の売却を計上して事業活動収入の合計は1,461億円となりました。

支出面では、医療経費を除く教育研究経費と管理経費の合計は旧武蔵小杉病院解体費用の計上と物価高騰の影響等により前年度比60億円の増加となりました。医療経費についても405億円となり医療経費率は41.6%と前年度対比1.4%の増加となりました。事業活動支出の合計は1,241億円となり、基本金組入前当年度収支差額は220.4億円の収入超過(黒字)となりました。

資金面では、キャッシュフローの改善と新武蔵小杉病院建設つなぎ融資180億円を一括返済したことから当年度末借入金残高は131億円と前年度より277億円の大幅な減少となりました。

## 資金収支計算書 \*会計年度の現預金の動きとその内容を表している計算書

### 1. 収入の部

- ◆ 学生生徒等納付金収入  
日本医科大学、日本獣医生命科学大学、看護専門学校授業料、入学金、教育充実費等の金額で58.3億円となりました。
- ◆ 寄付金収入  
企業等、篤志家からの教育研究および施設設備にかかる寄付金で、合計5.7億円となりました。
- ◆ 補助金収入  
新型コロナウイルス対応にかかる補助金は減少となりましたが、法人全体で78.7億円となりました。
- ◆ 資産売却収入  
旧武蔵小杉病院跡地(C街区)売却にかかる収入を計上して295.2億円となりました。
- ◆ 附属事業収入  
主に日本獣医生命科学大学の動物医療センターの収入で、附属牧場とワクチン研究施設の収入を合わせて7.5億円となりました。
- ◆ 受託事業収入  
受託研究6.8億円、治験4.9億円他に受託検査・受託指導・受託事業等の収入を合わせて18.2億円となりました。
- ◆ 医療収入  
4病院、2クリニック、健診医療センターの医療収入の合計で973.8億円となり、前年度実績を約28億円、予算に対しても13.6億円上回りました。
- ◆ 雑収入  
施設設備利用料収入、私学退職金財団交付金収入、過年度修正額を含んでおり、20.5億円の計上となりました。

### 2. 支出の部

- ◆ 施設関係支出  
当年度の主な案件は、第2期教育施設棟新築工事、日本獣医生命科学大学の富士セミナーハウス増築、武蔵小杉病院機械立駐棟建築工事、千葉北総病院PET-CT室増設工事となります。
- ◆ 設備関係支出  
主に教育研究用機器備品(医療機器含む)の購入等で34億円となりました。

## 資金収支計算書

(自) 令和5年4月1日 (至) 令和6年3月31日  
(単位: 百万円)

収入の部			
科目	予算①	実績②	対予算①-②
学生生徒等納付金収入	5,824	5,831	△6
手数料収入	275	296	△21
寄付金収入	590	571	19
補助金収入	6,382	7,865	△1,484
資産売却収入	29,523	29,527	△3
補助活動収入	38	33	5
附属事業収入	846	753	93
受託事業収入	1,715	1,817	△102
医療収入	96,017	97,381	△1,364
受取利息・配当金収入	3	3	△0
雑収入	1,924	2,053	△130
借入金等収入	5,000	-	5,000
その他の収入 ※1	34,849	33,550	1,299
資金収入調整勘定	△18,218	△20,816	2,599
前年度繰越支払資金	9,895	9,895	-
収入の部合計	174,663	168,759	5,905

支出の部			
科目	予算①	実績②	対予算①-②
人件費支出	45,672	46,595	△923
教育研究経費支出	20,176	19,862	314
医療経費支出	35,926	40,599	△4,673
管理経費支出	6,702	6,969	△267
借入金等利息支出	283	249	34
借入金等返済支出	27,739	27,739	0
施設関係支出	3,492	3,069	423
設備関係支出	5,629	3,391	2,238
その他支出 ※2	24,515	29,631	△5,115
[予備費支出]	-	-	-
資金支出調整勘定	△15,471	△20,459	4,988
翌年度繰越支払資金	20,000	11,113	8,887
支出の部合計	174,663	168,759	5,905

※1 その他の収入…前受金収入、未収入金収入、貸付金回収収入等  
 ※2 その他の支出…前払金支払支出、未払金支払支出、貸付金支出等

\*科目毎に百万円未満を四捨五入処理のため、合計で必ずしも一致しない。

## 事業活動収支計算書

\*会計年度の実質的に損益となる収入・支出の内容を3区分して経営状況を表す計算書

### 1. 教育活動収支

(収入の部)

- ◆ 学生生徒等納付金、医療収入、受託事業収入などは資金収支科目とほぼ同じ意味になり、寄付金と補助金は、施設設備にかかるものを除きます。教育活動収入の合計は1,165億円です。予算比30.6億円の増加となりました。

(支出の部)

- ◆ 人件費  
466.5億円となり予算対比では3.2億円上回りましたが、前年度対比では2.6億円の増加となりました。
- ◆ 教育研究経費（医療経費を除く）  
減価償却を含み266.7億円となります。物価上昇の影響による諸経費の増加、また、旧武蔵小杉病院の解体費用を計上して前年度比約45億円の増加となりました。
- ◆ 医療経費  
医療経費は医療収入に対する経費で405億円となり、医療経費率は41.6%と前年度比1.4%の増加となりました。特に薬品費、材料費が大きな増加となっています。
- ◆ 管理経費  
諸税公課勘定に旧武蔵小杉病院跡地（C街区）売却にかかる諸税を含んで計上し、管理経費は71.3億円となります。
- ◆ 徴収不能引当金組入額等を含めた教育活動支出の合計は1,210億円となり、教育活動収支差額はマイナス44.9億円となりました。

### 2. 教育活動外収支

- ◆ 収入は受取利息で支出は借入金等利息となり、教育活動外収支はマイナス2.4億円です。1. 教育活動収支と2. 教育活動外収支を合わせた経常収支差額はマイナス4.7億円となります。

### 3. 特別収支

(収入の部)

- ◆ 旧武蔵小杉病院跡地の売却差額と施設設備にかかる補助金、寄付金と現物寄付を合わせて特別収入合計は296億円の計上になります。

(支出の部)

- ◆ 資産処分差額は、旧武蔵小杉病院の取壊しに伴う建物等の除却と図書を除却等で特別支出合計は2.9億円となります。

結果、基本金組入前当年度収支差額は220.4億円の収入超過となりました。

## 事業活動収支計算書

(自) 令和5年4月1日 (至) 令和6年3月31日

### 【教育活動収支】

科目	予算①	実績②	対予算①-②
学生生徒等納付金	5,824	5,831	△ 6
手数料	275	296	△ 21
寄付金	587	566	21
経常費等補助金	6,235	7,788	△ 1,553
補助活動収入	38	33	5
附属事業収入	846	753	93
受託事業収入	1,715	1,817	△ 102
医療収入	96,017	97,381	△ 1,364
雑収入	1,924	2,059	△ 135
教育活動収入計	113,461	116,524	△ 3,063
人件費	46,324	46,648	△ 324
教育研究経費	27,343	26,673	670
(減価償却額)	(7,167)	(6,830)	(337)
医療経費	35,926	40,493	△ 4,566
管理経費	6,876	7,132	△ 256
(減価償却額)	(174)	(160)	(14)
徴収不能引当金組入額等	10	65	△ 55
教育活動支出計	116,479	121,011	△ 4,531
教育活動収支差額	△ 3,019	△ 4,487	1,468

### 【教育活動外収支】

受取利息・配当金	3	3	△ 0
教育活動外収入計	3	3	△ 0
借入金等利息	283	249	34
教育活動外支出計	283	249	34
教育活動外収支差額	△ 280	△ 245	△ 35
経常収支差額	△ 3,299	△ 4,732	1,434

### 【特別収支】

科目	予算①	実績②	対予算①-②
資産売却差額	29,431	29,455	△ 24
その他の特別収入	193	145	48
施設設備寄付金	3	5	△ 2
施設設備補助金	147	77	70
現物寄付	43	63	△ 20
過年度修正額	—	—	0
特別収入計	29,624	29,600	24
資産処分差額	2,705	2,796	△ 91
その他の特別支出	—	32	△ 32
過年度修正額	—	32	△ 32
開発に伴う土地寄贈	—	—	—
特別支出計	2,705	2,828	△ 123
特別収支差額	26,919	26,772	147
[予備費]	—	—	—
基本金組入前当年度収支差額	23,620	22,040	1,580
基本金組入額合計	△ 3,763	△ 4,760	996
当年度収支差額	19,857	17,280	2,577
前年度繰越収支差額	△ 151,917	△ 151,917	—
基本金取崩額	—	8,563	△ 8,563
翌年度繰越収支差額	△ 132,060	△ 126,074	△ 5,987

(参考)

事業活動収入計	143,088	146,127	△ 3,039
事業活動支出計	119,468	124,087	△ 4,620

\*科目毎に百万円未満を四捨五入処理のため、合計で必ずしも一致しない。

## 貸借対照表

\*資産の部、負債の部、純資産の部に区分され会計年度末の財政状況を表す計算書

### 1. 資産の部

- ◆ 固定資産のうち、建物勘定は旧武蔵小杉病院の取壊しにより減少となり、建設仮勘定は第2期教育施設棟建設工事、八重洲健診ステーション設計などの計上で増加となりました。
- ◆ 流動資産の当年度末現金預金残高は111億円となり、当年度末の資産の部合計は1,405億円となりました。

### 2. 負債の部

- ◆ 当年度末借入金残高は131億円で前年度より277億円の大幅な減少となり、当年度末の負債の部合計は562億円となりました。

### 3. 純資産の部

- ◆ 学校法人会計特有の基本金が記載されています。基本金は、学校の教育活動を安定・継続的に保持していくために必要な資産の金額を観念的にとらえて、事業活動収入から留保したものとされ、第1号から第4号まで目的に応じて定められています。当年度の基本金残高は合計で2,104億円となりました。

## 貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：百万円)

資産の部			
科目	本年度末①	前年度末②	対前年①-②
固定資産	109,788	113,162	△ 3,374
有形固定資産	108,510	111,852	△ 3,342
土地	22,469	22,420	49
建物	66,069	69,121	△ 3,053
構築物	2,175	2,168	7
教育研究用機器備品	14,625	15,155	△ 530
管理用機器備品	174	169	5
図書	2,390	2,417	△ 27
車両	97	103	△ 6
建設仮勘定	511	299	212
特定資産	58	58	-
第3号基本金引当特定資産	58	58	-
その他の固定資産	1,221	1,253	△ 32
長期有価証券	316	316	-
その他	904	936	△ 32
流動資産	30,683	31,520	△ 837
現金預金	11,113	9,895	1,219
その他	19,570	21,626	△ 2,056
資産の部合計	140,471	144,683	△ 4,212

負債の部			
科目	本年度末①	前年度末②	対前年①-②
固定負債	29,784	53,341	△ 23,557
長期借入金	8,253	31,106	△ 22,853
その他	21,531	22,234	△ 703
流動負債	26,389	29,083	△ 2,695
短期借入金	4,853	9,739	△ 4,886
短期未払金	19,213	15,458	3,755
前受金	1,249	2,799	△ 1,551
その他	1,074	1,087	△ 13
負債の部合計	56,173	82,424	△ 26,251
純資産の部			
基本金	210,372	214,176	△ 3,804
第1号基本金	203,038	206,842	△ 3,804
第2号基本金	-	-	-
第3号基本金	58	58	-
第4号基本金	7,276	7,276	-
繰越収支差額	△ 126,074	△ 151,917	25,844
翌年度繰越収支差額	△ 126,074	△ 151,917	25,844
純資産の部合計	84,298	62,258	22,040
負債及び純資産の部合計	140,471	144,683	△ 4,211

\*科目毎に百万円未満を四捨五入処理のため、合計で必ずしも一致しない。